

農林水産関係

試験研究機関の研究成果を発表します

農林水産業競争力アップ技術開発事業などで取り組んだ試験研究の成果について、広く県民の皆様
に知っていただくため、成果発表会を開催するとともに動画配信いたします。

《 開催スケジュール 》

試験研究機関	会場開催				動画配信 期間
	日時	会場	定員	申込期限	
水産試験場	2月13日(月) 13:30~15:30	水産試験場2階学習ホール (東牟婁郡串本町串本 1557-20)	49名	2月6日(月)	2月27日(月) ~ 3月27日(月)
農業試験場 農業試験場暖地園芸センター	2月15日(水) 13:00~15:15	農業試験場暖地園芸センター 園芸技術研修館会議室 (御坊市塩屋町南塩屋 724)	35名	2月8日(水)	
林業試験場	2月15日(水) 13:30~16:00	上富田文化会館 2階 小ホール (西牟婁郡上富田町朝来 758-1)	60名	2月8日(水)	
果樹試験場かき・もも研究所	2月16日(木) 13:30~16:30	那賀振興局 3階 大会議室 (岩出市高塚 209)	50名	2月9日(木)	
果樹試験場うめ研究所	2月22日(水) 13:30~16:00	ホテル&リゾート和歌山みなべ (日高郡みなべ町山内 348)	160名	2月20日(月)	
果樹試験場 (動画配信)					

新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、会場内が密とならないよう定員を定めさせていただきます。

《 お申し込み方法 》

参加・視聴を希望する試験研究機関の申込用紙により、会場ごとにお申し込みください。

《 動画配信の視聴方法 》

動画共有サービス「YouTube」にて配信します。申しいただいた方に後日、動画を視聴できるURLを
お送りします。

発表要旨は、県ホームページからダウンロードできます。
また、各試験研究機関でも配布します。

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/004_happyo.html



〈問い合わせ先〉 研究推進室(的場)	TEL: 073-441-2997	
水産試験場	TEL: 0735-62-0940	
農業試験場	TEL: 0736-64-2300	暖地園芸センター TEL: 0738-23-4005
林業試験場	TEL: 0739-47-2468	かき・もも研究所 TEL: 0736-73-2274
うめ研究所	TEL: 0739-74-3780	果樹試験場 TEL: 0737-52-4320

水産試験場成果発表課題 要約

1. 主要藻場モニタリング調査

(部長 諏訪剛)

県内主要藻場のモニタリングを、小型ドローンを用いた空撮による方法で実施し、潜水調査結果と比較した。藻場の規模の測定、被度（海藻の粗密度合い）の測定及び主要海藻の種類の判別について検討した結果、浅所ではガラモ場の判別とその被度測定が可能であった。

2. マルアジの脂質含量と鮮度の研究 ～特選出荷に向けて～

(主任研究員 高橋芳明)

マルアジは10月から12月にかけて脂の乗った個体の割合が増し、同時期の脂質含量は大型の個体が高く、200g以上の個体で肥満度と脂質含量との相関が高いことが分かった。

3. 低塩分海水を用いたモクズガニ種苗生産技術の開発

(副主査研究員 武田崇史)

飼育水の塩分濃度がモクズガニの生残率に及ぼす影響を発達段階（ソエア期、メガロパ期）ごとに調査した。ソエア期には、75%海水（24‰）で飼育すると生残率が最も高く、メガロパ期には、幼生初期に飼育水を淡水に置換しても生残率に影響を及ぼさなかった。この結果を応用することで、生産不調の解消や生産効率の向上が期待できると考えられた。

4. ニホンウナギに好適な河川環境を解明する調査研究

(副主査研究員 北村章博)

ニホンウナギに適した河川環境を調査した。小型のニホンウナギは底質が礫、大型のニホンウナギは護岸形状が石垣に多く生息していると推定された。また、本種のクロコ（着底生活初期）の生息状況と餌料環境について調査した。河川の本流に比べて、ワンド（流れの緩やかな入り江）でクロコの生息量や餌生物が多いことが判明した。

農業試験場成果発表会 発表課題 要約

1. 短節間実エンドウ‘光丸うすい’の莢品質向上技術（暖地園芸センター）

（主任研究員 宮前治加）

短節間実エンドウ‘光丸うすい’の秋播きハウス冬春どり作型において、厳寒期の莢品質を向上させるためには、①基肥を少なくし追肥を多くする②莢への受光条件を良くする③日中のハウス内温度を適温（20℃）で管理することが有効であった。

2. 冬季早朝の段階加温によるミニトマト‘キャロル7’の裂果抑制（暖地園芸センター）

（主査研究員 田中寿弥）

ミニトマト‘キャロル7’の長期促成栽培において、冬季早朝の段階加温により、日の出前後の加温機稼働回数が増加、ハウス内の気温が緩やかに上昇、相対湿度が低下し、果実側面の皮や果肉が裂ける「裂果」の減少が認められた。

3. トルコギキョウ2番花を開花促進させる省エネ技術開発（暖地園芸センター）

（園芸部長 花田裕美）

トルコギキョウ2番花のEOD加温（End of Day-heating）は、18℃一定加温に比べ1-3月の燃油使用量は抑制できたが、夜温が高くなる4月には増加した。そこで、3月までEOD加温を行い、4月を18℃一定加温にすると開花促進効果は認められ、燃油使用量も18℃一定より抑制される省エネ加温であることが確認された。

4. エンドウさび病の発生生態と防除対策（農業試験場環境部）

（主査研究員 井沼崇）

日高地域におけるエンドウさび病の初発時期は11月下旬～12月下旬で、その後も栽培終了時期まで継続して発生した。薬剤防除試験によると、アフェットフロアブル、カナメフロアブル、アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、イオウフロアブル、ペンコゼブフロアブルの効果が高かった。

5. イチゴ‘まりひめ’の栽培期間を通した高品質安定生産技術開発（農業試験場栽培部）

（主査研究員 川西孝秀）

‘まりひめ’は、多収・良食味で栽培面積が増加しブランド化が進んでいるが、時期による糖度のバラツキが問題となっている。そこで、糖度の安定化に向けて、CO₂施用を行う場合の適正な温度管理と摘葉・摘花について検討を行った。日中の換気と夜間の暖房温度および摘葉・摘花程度を時期ごとに変動させることで、栽培期間を通して糖度がやや向上し安定する。

6. イチゴ新品種‘紀の香’の優良苗生産技術の開発（農業試験場栽培部）

（主査研究員 田中郁）

‘紀の香’の優良苗を安定生産するためには、親株の葉数を16枚以上で管理してランナーの発生を促進するとともに、6月中旬以降の育苗期間を通して50%程度の遮光を行うことが有効である。また、不時出蕾抑制のため苗受けは6月下旬以降とする。

林業試験場成果発表課題 要約

1. スギ・ヒノキ人工林の針広混交林への誘導について

(研究員 大谷美穂)

人工林を針広混交林に誘導するためのモデル林として列状間伐、群状間伐が実施されたエリアにおいて、針広混交林成立の可能性を検証した。

各間伐エリアにシカ柵あり・柵なし区を設定し、植被率、林床被覆（落葉落枝）率の調査を行った。柵内・柵外で植生の繁茂状況に明確な違いがあり、シカ柵により食害を防ぐことが有効であると確認された。

2. 近年増加するスギ苗木等の被害について

(主任研究員 法眼利幸)

近年、コンテナ苗という新たな苗木生産技術が導入されることによって、これまで確認されていなかった病害虫の発生がみられはじめている。一方、対策方法が確立したため最近見られなくなったスギ苗木の赤枯病などの被害が再び散見されるようになっている。

林業試験場に対して原因や要因の解明を求める要望が増加しており、今回、被害相談を受けた事例や、現地調査を実施した事例を報告することで、警鐘を鳴らすとともに、被害の軽減に繋げることを目的とする。

3. スギ大径材を活用した心去り平角材について

(研究員 一岡直道)

県産スギ大径材の特性を生かした心去り平角材（原木の中心を外して製材した材）について、変形（反り）を抑えるための製材及び乾燥時の積み方法を検討するとともに強度特性の解明を試みた結果、製材方法による反りの低減や、強度特性に関するデータを得ることができた。

4. 大径材から生産される製材ラミナの強度分布について

(主任研究員 山裾伸浩)

県産スギ、ヒノキ大径材の活用に向け、原木及びそこから生産されるラミナについて打撃による動的ヤング係数を中心に評価を行い、強度分布に関する知見を得た。

これらの成果は、県産大径材から集成材等の木質材料を製造する際の等級決定など、大径材の利用促進に資するデータとして活用できると考えられる。

5. イタドリの長期安定栽培について

(主査研究員 杉本小夜)

イタドリは県内山間地域で広く食されている郷土山菜であり、近年栽培者が増えている。しかし、長年栽培を続けると、収量が減少する事例もみられるため、長く安定した収量を保つための収穫方法について検討を行った。

その結果、通常の収穫期間の約 2/3 の期間（約 2 週間以内）で収穫を打ち切ることで、比較的安定した収量が維持できると考えられた。

果樹試験場かき・もも研究所成果発表課題 要約

1. 和歌山県産カキの輸出に対応した品質保持技術

(主査研究員 古田貴裕)

和歌山県産カキの船便による輸出に対応した品質保持技術を検討した。「刀根早生」では 0℃の輸送温度で、2 週間程度の輸送期間を要する東南アジア向けにはエチレン阻害剤である 1-MCP 処理または防湿段ボールを利用すること、1 か月程度の輸送期間を要する米国向けには 1-MCP 処理と防湿段ボールを併用することが軟化抑制に有効である。

2. カキでのドローンによる農薬散布の病害虫防除効果

(主査研究員 大谷洋子)

カキ栽培においてドローンを利用した省力的な病害虫防除技術を確立するため、カキの主要病害虫を対象にドローンからの農薬散布による防除効果を検討し、殺菌剤 1 剤、殺虫剤 1 剤の有用性を明らかにした。

3. モモ・スモモ等の害虫クビアカツヤカミキリに対する薬剤防除効果

(主査研究員 弘岡拓人)

薬剤樹幹散布後の降雨がクビアカツヤカミキリの成虫に対する殺虫効果や産卵数、心化幼虫に与える影響を調査し、各種薬剤の接触毒性や残効性および産卵抑制効果を明らかにした。

果樹試験場うめ研究所成果発表課題 要約

1. ウメ生産におけるミツバチの重要性とナノハナ活用の可能性（共同研究）

（農研機構農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域 上級研究員 前田太郎）

開花期間中のミツバチ訪花に適した日数と、開花前の気温が着果率と収量を決定する主要因であることが明らかになった。開花期間中のミツバチ訪花が少ない場合や、開花前の気温が高い場合に着果率と収量の低下が生じる。ミツバチの訪花は気温が 15℃以下で低下するが、ウメの周囲にナノハナがあるとミツバチ訪花数が増加することが明らかとなった。

2. ウメにおける単肥および鶏糞堆肥を活用した施肥の低コスト化

（研究員 梶野高志）

施肥コストの低減を目的に、単肥のみの施肥体系と単肥と鶏糞堆肥を組み合わせた施肥体系を慣行の有機配合肥料の施肥体系と比較した。その結果、慣行施肥体系と土壤理化学性、樹体養分、樹体生育、収量に差はみられなかったため代替として活用できると考えられた。また、施肥コストは 43～45%削減できると見込まれた。

3. ウメ青果の輸出促進に向けた取組について

（主任研究員 大江孝明）

‘南高’ 青果輸出時に発生した褐変障害果の要因を調査したところ、CO₂ 濃度、収穫後の温度条件、果実の大きさ等の関与が明らかとなった。また、褐変障害果の発生を低減する資材を探索し、p-プラスの2重包装が良いことを見いだした。一方、海外で需要が見込まれる赤色品種‘露茜’の品質を損なわない輸送条件を明らかにした。

4. 収穫期の分散に寄与する育種素材の探索について

（研究員 柏本知晟）

成熟期の異なるウメ6品種の果実肥大を調査したところ、小ウメおよび実ウメに比べ、台湾ウメの肥大は緩慢であり、完熟落果盛期は‘南高’より 10～25 日遅くなった。また、‘二青梅’は果実の成熟や落果を促すエチレン生成がほとんどなかった。以上のことから、台湾ウメは収穫期の分散に寄与する晩生品種の育種素材として有望と考えられた。

5. モモヒメヨコバイの発生生態と防除対策について

（研究員 柏木悠里）

成虫および幼虫がウメ等の葉を吸汁し加害するモモヒメヨコバイは、ウメ園地において 3～4 月、7～8 月、10～11 月の年間3回発生ピークがあることがわかった。また、葉の吸汁被害面積割合が 50%以上では、光合成速度が大きく低下した。薬剤試験の結果、いくつかの薬剤に成虫の殺虫効果が認められた。

6. クビアカツヤカミキリの被害状況と試験研究の取組

(主任研究員 菱池政志)

ウメ、スモモ、サクラ等を食害するクビアカツヤカミキリは、和歌山県では2019年に発生が確認され、年々紀北地域で被害が拡大している。クビアカツヤカミキリの被害拡大を抑えるためには、地域ぐるみで早期発見の取組が重要である。現在、薬剤の殺虫効果試験やネット被覆による産卵抑制試験に取り組んでいる。

○JA紀州の活動報告

日本一の梅産地であり続けるために～生産者の声に応える新たな取組み～

(JA 紀州みなべ営農販売センター 調査役 廣澤健仁)

JA 紀州ではウメ生産者に対し、タイムリーな病害虫情報の発信、老木の改植推進により、生産性・秀品率の向上を図っている。また、コロナ禍で対面での活動が制限される中、新たにSNSや動画配信等による産地のPR、加工方法の普及に取り組んだ。さらに、ズバイ（頭梅、ウメのせん定枝を生け花用に調整・選別したもの）の商品化・産地化に取り組んだ。

果樹試験場成果発表課題 要約

1. 極早生ウンシュウ「YN26」の日焼け果発生状況と対策

(主任研究員 中谷章)

「YN26」の日焼け果は、いずれの現地栽培園においても調査期間を通して発生し、特に曇天後の晴天・高温状況下で多く発生した。また、樹冠の南側や東側の果実および樹冠外側の果実で発生が多かった。炭酸カルシウム剤（薬剤名：ホワイトコート）散布により品質を低下させずに日焼け果発生数を軽減できた。

2. カンキツ新品種「あすみ」「あすき」の品種特性

(研究員 直川幸生)

「あすみ」は高糖度・良食味で浮皮の発生がほとんどなく、2月上旬に成熟する施設栽培向きの品種である。また、「あすき」は高糖度・良食味で浮皮の発生がなく、3月下旬以降に成熟する品種である。

3. ドローンによる農薬散布の防除効果

(主任研究員 熊本昌平)

ドローンを用いて農薬を高濃度少量散布した結果、樹の中で薬剤の付着に偏りは認められるものの、殺菌剤3剤、殺虫剤1剤の防除効果は動力噴霧機による手散布と比べて同等もしくはやや劣るが実用性はあると考えられた。

4. ウンシュウミカンにおける効率的なカンキツかいよう病の防除対策

(主査研究員 武田知明)

ウンシュウミカンにおけるかいよう病を効率的に防除するには、発芽前に園内の発病葉を確認し、発病が認められる場合は、発病葉のせん除と3月下旬（発芽直前）の塩基性硫酸銅剤（IC ボルドー66D）の散布を実施する。

令和4年度水産試験場成果発表会

日時 令和5年2月13日(月) 13:30~15:30

会場 和歌山県水産試験場 2階 学習ホール(串本町串本1557-20)

☆開会

☆挨拶

☆研究発表

- 1) 主要藻場モニタリング調査
- 2) マルアジの脂質含量と鮮度の研究～特選出荷に向けて～
- 3) 低塩分海水を用いたモクズガニ種苗生産技術の開発
- 4) ニホンウナギに好適な河川環境を解明する調査研究

企画情報部	諏訪 剛
資源海洋部	高橋芳明
増養殖部	武田崇史
内水面試験地	北村章博



ドローンによる空撮画像



水揚げされたマルアジ



モクズガニのメガロパ幼生



銀化したニホンウナギ

主催: 和歌山県

お問い合わせ先

和歌山県水産試験場

〒649-3503 東牟婁郡串本町串本1557-20

TEL: 0735-62-0940

FAX: 0735-62-3515

**令和4年度
水産試験場成果発表
参加・視聴申込書**

参加・視聴を希望される方は、下記の項目にご記入のうえ
メールまたはファックスにてお申込みください。

<送り先>

和歌山県水産試験場 あて（送り状不要）
メール：e0710011@pref.wakayama.lg.jp
FAX：0735-62-3515
申込先TEL：0735-62-0940

所属名・団体名	職名	氏名	電話番号	参加方法		動画視聴URL送付先 メールアドレスまたはFAX番号
				希望する参加方法に○、複数可		
				会場*1	動画視聴*2	

（開催日時、場所）

- ・ 令和5年2月13日(月) 13:30~15:30
- ・ 水産試験場2階学習ホール
（東牟婁郡串本町串本1557-20）

- *1 会場参加申し込みは令和5年2月6日(月)までにお願いいたします。
- *2 動画視聴申し込みは令和5年2月20日(月)までにお願いいたします。
記載いただいた送付先へ動画を視聴できるURLをお送りいたします。

令和4年度 農業試験場 研究成果発表会

日時 : 令和5年2月15日(水) 13:00~15:15
会場 : 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

発表課題

【口頭発表】

(13:05~14:35)

- 短節間実エンドウ‘光丸うすい’の莢品質向上技術(暖地園芸センター)
主任研究員 宮前治加
- 冬季早朝の段階加温によるミニトマト‘キャロル7’の裂果抑制(暖地園芸センター)
主査研究員 田中寿弥
- トルコギキョウ2番花を開花促進させる省エネ技術開発(暖地園芸センター)
園芸部長 花田裕美
- エンドウさび病の発生生態と防除対策(農業試験場環境)
主査研究員 井沼 崇
- イチゴ‘まりひめ’の栽培期間を通じた高品質安定生産技術開発(農業試験場栽培部)
主査研究員 川西孝秀
- イチゴ新品種‘紀の香’の優良苗生産技術の開発(農業試験場栽培部)
主査研究員 田中 郁

【ポスター発表】

(14:40~15:15)

- タバコナジラミバイオタイプQに有効な薬剤の検討(農業試験場環境部)
主任研究員 岡本 崇
- ピレスロイド剤・ネオニコチノイド剤両抵抗性遺伝子を持つワタアブラムシの発生と薬剤の効果(農業試験場環境部)
主任研究員 衛藤夏葉、主任研究員 岡本 崇
- 水稻新奨励品種「にじのきらめき」の特性(農業試験場栽培部)
主任研究員 川村和史



お問い合わせ先 : 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

〒644-0024 御坊市塩屋町南塩屋724 TEL:0738-23-4005 FAX:0738-23-6903

**令和4年度
農業試験場成果発表
参加・視聴申込書**

参加・視聴を希望される方は、下記の項目にご記入のうえ
メールまたはファックスにてお申込みください。

<送り先>

和歌山県農業試験場暖地園芸センター あて（送り状不要）

メール：e0703041@pref.wakayama.lg.jp

FAX：0738-22-6903

申込先TEL：0738-23-4005

所属名・団体名	職名	氏名	電話番号	参加方法		動画視聴URL送付先 メールアドレスまたはFAX番号
				希望する参加方法に○、複数可		
				会場*1	動画視聴*2	

（開催日時、場所）

- ・ 令和5年2月15日（水）13:00～15:15
- ・ 農業試験場暖地園芸センター園芸技術研修館会議室
（御坊市塩屋町南塩屋724）

*1 会場参加申し込みは令和5年2月8日（金）までをお願いいたします。

*2 動画視聴申し込みは令和5年2月20日（月）までをお願いいたします。

記載いただいた送付先へ動画を視聴できるURLをお送りいたします。

令和4年度 林業試験場成果発表会

林業試験場で行っている森林の保護・育成、木材の利用、特用林産物栽培などの研究成果発表会

【日時】： 令和5年2月15日(水) 13:30~16:00

【会場】： 上富田文化会館 2階 小ホール (西牟婁郡上富田町朝来758-1)

口頭発表

1. スギ・ヒノキ人工林の針広混交林への誘導について

研究員 大谷 美穂



2. 近年増加するスギ苗木等の被害について

主任研究員 法眼 利幸



3. スギ大径材を活用した心去り平角材について

研究員 一岡 直道



4. 大径材から生産される製材ラミナの強度分布について

主任研究員 山裾 伸浩



5. イタダリの長期安定栽培について

主査研究員 杉本 小夜



ポスター発表

○14時45分~15時15分の間

【ポスター展示場所】： 研修室1・2(上富田文化会館 2階)

【発表内容】： ◇森林保護・育成関係 ◇木材利用関係 ◇特用林産関係

※研究ポスター・資料等につきましては、本成果発表会終了時まで展示していますので、ご自由にご覧ください。



参加費は無料。参加をご希望の方は、電話・FAX・メールなどで下記まで事前にお申し込み下さい。(定員：60名 ※事前申込/先着順)
申込内容：氏名、所属団体(勤務先など)、電話番号

【重要】新型コロナウイルス感染症拡大防止のためマスク着用、手指消毒、検温に、ご協力の程よろしく申し上げます。

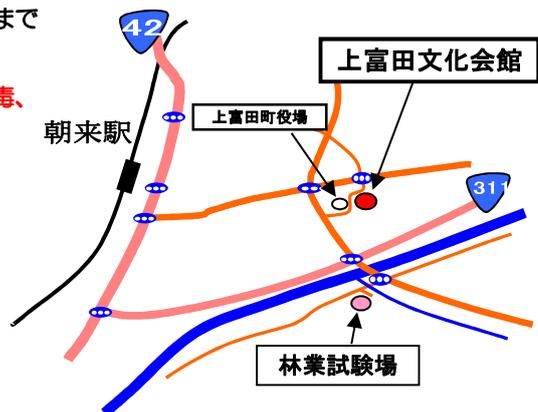
参加申込・お問い合わせ先

和歌山県 林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL: 0739-47-2468

FAX: 0739-47-4116



[主催] 和歌山県
[共催] 和歌山県林業技術開発推進協議会

**令和4年度
林業試験場成果発表
参加・視聴申込書**

参加・視聴を希望される方は、下記の項目にご記入のうえ
メールまたはファックスにてお申込みください。

<送り先>

和歌山県林業試験場 あて（送り状不要）
メール：e0706011@pref.wakayama.lg.jp
FAX：0739-47-4116
申込先TEL：0739-47-2468

所属名・団体名	職名	氏名	電話番号	参加方法		動画視聴URL送付先 メールアドレスまたはFAX番号
				希望する参加方法に○、複数可		
				会場*1	動画視聴*2	

（開催日時、場所）

- ・ 令和5年2月15日（水）13:30～16:00
- ・ 上富田文化会館2階 小ホール
（西牟婁郡上富田町朝来758-1）

- *1 会場参加申し込みは令和5年2月8日（水）までをお願いいたします。
- *2 動画視聴申し込みは令和5年2月20日（月）までをお願いいたします。
記載いただいた送付先へ動画を視聴できるURLをお送りいたします。

令和4年度

果樹試験場かき・もも研究所成果発表会

かき・もも研究所で行っている柿・桃の研究成果を生産者の皆様に分かりやすくお伝えします

【日時】：令和5年2月16日（木）13:30～16:30

【場所】：那賀振興局三階大会議室（岩出市高塚209）

研究成果

1. 和歌山県産カキの輸出に対応した品質保持技術 主査研究員 古田貴裕
2. カキでのドローンによる農薬散布の病害虫防除効果 主査研究員 大谷洋子
3. モモ・スモモ等の害虫クビアカツヤカミキリに対する薬剤防除効果 主査研究員 弘岡拓人



研究成果は後日、YouTubeで動画配信もします。詳しくは、かき・もも研究所ホームページをご覧ください。

研究トピックス

1. 音響振動による桃の適期収穫法の開発
副主査研究員 岡橋卓朗

技術紹介

1. モモの核割れ軽減対策
主任研究員 堀田宗幹
2. カキ「紀州てまり」の栽培ポイント
主任研究員 有田 慎

先着50名

参加費は無料です

参加をご希望の方は2月9日（木）までに、【代表者のお名前、参加人数】をメール、FAX、電話のいずれか（※なるべくメール）でかき・もも研究所までお知らせください。

【重要】新型コロナウイルス感染症拡大防止のためマスク着用、手指消毒、検温にご協力をお願いします。新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては発表会を中止させていただくことがございます。中止の場合はかき・もも研究所ホームページでお知らせします。

[主催] 和歌山県

お問い合わせ先： 和歌山県果樹試験場かき・もも研究所
〒649-6531 紀の川市粉河3336
TEL:0736-73-2274 FAX:0736-73-4690
メール e0703071@pref.wakayama.lg.jp



**令和4年度
果樹試験場かき・もも研究所成果発表
参加・視聴申込書**

参加・視聴を希望される方は、下記の項目にご記入のうえ
メールまたはファックスにてお申込みください。

<送り先>

和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 あて（送り状不要）

メール：e0703071@pref.wakayama.lg.jp

FAX：0736-73-4690

申込先TEL：0736-73-2274

所属名・団体名	職名	氏名	電話番号	参加方法		動画視聴URL送付先 メールアドレスまたはFAX番号
				希望する参加方法に○、複数可		
				会場*1	動画視聴*2	

（開催日時、場所）

- ・ 令和5年2月16日（木）13:30～16:00
- ・ 那賀振興局 3階 大会議室
（岩出市高塚209）

*1 会場参加申し込みは令和5年2月9日（木）までをお願いいたします。

*2 動画視聴申し込みは令和5年2月20日（月）までをお願いいたします。

記載いただいた送付先へ動画を視聴できるURLをお送りいたします。

令和4年度 ウメ研究成果発表会

うめ研究所や関係機関の研究成果、現地技術情報を生産者の皆様に分かりやすくお伝えします。

主催

紀州うめ研究協議会（ウメ生産者・市町・JA・県機関で構成する技術開発の支援機関：会長：箱木英樹）

日時：令和5年2月22日（水） 13:30～16:00
場所：ホテル&リゾート和歌山みなべ（みなべ町山内348番地）

発表内容

- （1）ウメ生産におけるミツバチの重要性とナノハナ活用の可能性（共同研究）
農研機構 農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域 上級研究員 前田 太郎
 - （2）ウメにおける単肥および鶏糞堆肥を活用した施肥の低コスト化（うめ研究所）
研究員 梶野 高志
 - （3）ウメ青果の輸出促進に向けた取組について（うめ研究所）
主任研究員 大江 孝明
 - （4）収穫期の分散に寄与する育種素材の探索について（うめ研究所）
研究員 柏本 知晟
 - （5）モモヒメヨコバイの発生生態と防除対策について（うめ研究所）
研究員 柏木 悠里
 - （6）クビアカツヤカミキリの被害状況と試験研究の取組（うめ研究所）
主任研究員 菱池 政志
- 日本一の梅産地であり続けるために～生産者の声に応える新たな取り組み～
JA紀州みなべ営農販売センター 調査役 廣澤 健仁

参加費は無料ですが、事前申込みが必要です。



お問い合わせ先

和歌山県果樹試験場うめ研究所
〒645-0021
和歌山県日高郡みなべ町東本庄1416-7
TEL：0739-74-3780
FAX：0739-74-3790
E-mail：e0703081@pref.wakayama.lg.jp

発表当日はうめ研究所成果情報第16号を配布します。

**令和4年度
果樹試験場うめ研究所成果発表
参加・視聴申込書**

参加・視聴を希望される方は、下記の項目にご記入のうえ
メールまたはファックスにてお申込みください。

<送り先>

和歌山県果樹試験場うめ研究所 あて（送り状不要）

メール：e0703081@pref.wakayama.lg.jp

FAX：0739-74-3790

申込先TEL：0739-74-3780

所属名・団体名	職名	氏名	電話番号	参加方法		動画視聴URL送付先 メールアドレスまたはFAX番号
				希望する参加方法に○、複数可		
				会場*1	動画視聴*2	

（開催日時、場所）

- ・ 令和5年2月22日（水）13:30～16:30
- ・ ホテル&リゾート和歌山みなべ
（日高郡みなべ町山内348）

*1 会場参加申し込みは令和5年2月20日（月）までをお願いいたします。

*2 動画視聴申し込みは令和5年2月20日（月）までをお願いいたします。

記載いただいた送付先へ動画を視聴できるURLをお送りいたします。

**令和4年度
果樹試験場成果発表
視聴申込書**

視聴を希望される方は、下記の項目にご記入のうえ
メールまたはファックスにてお申込みください。

<送り先>

和歌山県果樹試験場 へて（送り状不要）

メール：e0703021@pref.wakayama.lg.jp

FAX：0737-53-2037

申込先TEL：0737-52-4320

所属名・団体名	職名	氏名	電話番号	動画視聴URL送付先 メールアドレスまたはFAX番号

* 視聴申し込みは令和5年2月20日(月)までをお願いいたします。

記載いただいた送付先へ動画を視聴できるURLをお送りいたします。